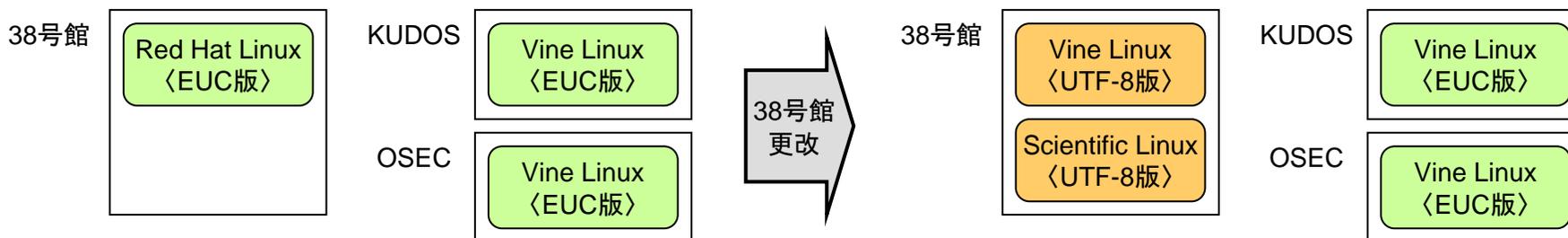


38号館PC教室システム更改(2012年9月1日以降)に伴うご留意事項

2012年の38号館PC教室システム更改において配備しました最新のLinux環境(Vine Linux / Scientific Linux)においては、OSの標準文字コードが従来のEUCコードから、多言語に対応したUTF-8へと変わりました。

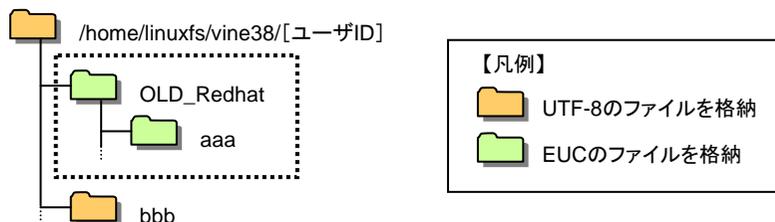
一方、KUDOSおよびOSECのLinux環境(Vine Linux)については、従来どおりEUC版をご利用いただくこととなります。



これに伴い、下記のようにファイルを移行しておりますので、以下にご留意の上、Linuxシステムをご利用下さいますようお願い致します。

①ホームディレクトリについて

38号館旧Linux環境 (Red Hat Linux<EUC版>)の廃止に伴い、旧Red Hat Linux用ホームディレクトリ (/home/linuxfs/[ユーザ名])のデータは、38号館新クライアントのVine Linux<UTF-8版>用ホームディレクトリ (/home/linuxfs/vine38/[ユーザ名])配下にある「OLD_Redhat」ディレクトリ内へ、そのまま移行されています。



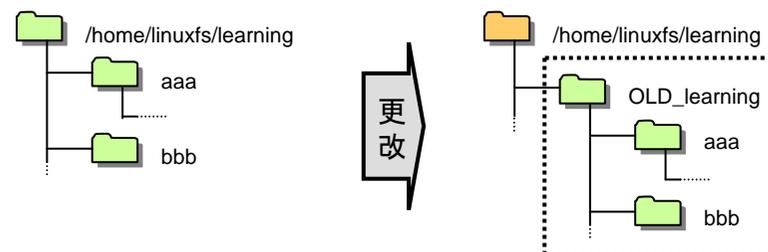
旧Red Hat環境で作成されたEUCコードのファイルについては、38号館新Linux環境<UTF-8版>上ではファイル名やファイル内容が文字化けして見えます。

これらのファイルについてはお手数ですが、必要に応じてファイル名の変更や文字コードの変換を行った上でご利用下さいますようお願い致します。

②共有ディレクトリ(learning)について

共有ディレクトリ(/home/linuxfs/learning)上でこれまでご利用のEUCコードのファイルについては、38号館の<UTF-8版>新Linux環境上ではファイル名やファイル内容が文字化けして見えます。

このため今回のシステム更改の際、learning ディレクトリの直下にサブディレクトリ「OLD_learning」を作成し、既存のデータを移動しております。



既存のEUCコードのファイルを38号館新Linux環境<UTF-8版>で用いる場合は、お手数ですが必要に応じてファイルを「OLD_learning」の外の領域へコピーし、ファイル名の変更や文字コードの変換を行った上でご利用下さいますようお願い致します。

※KUDOS/OSECのLinux環境<EUC版>では、EUCのままご利用ください。

(参考)文字化けしたファイル名の変換方法

■ファイル名が文字化けしている場合の変換方法(例)

1. Linux上でのファイル名変換

《方法1》 ※ここでは例として、ファイル名がEUCコードの日本語となっているファイルを、UTF-8のファイル名へ変更する方法を記しています。

(1) 「ファイルサーバ利用の手引き」に従って、Windows端末上で Tera Term を起動し、38号館ファイルサーバ(linuxfs-38.cc.kindai.ac.jp)へSSH接続します。

(2) メニューの[設定(Setup)]-[端末(Terminal)]を開きます。

設定項目のうち、[漢字-受信(Kanji(receive))]**および**[漢字-送信(Kanji(transmit))]**の設定を、いずれも「EUC」に設定します。**

(3) 「LANG=ja_JP.EUC-JP」コマンドにより、言語設定をEUCに切り替えます。

(4) 「ls」コマンドで、EUCコードの日本語ファイル名が正しく表示されることを確認します。

(5) 以下のコマンドにより、日本語(EUC)のファイル名を、英数字のみのファイル名に変更します。

コマンド例) mv **日本語ファイル名** **英数字のファイル名**

(6) メニューの[設定(Setup)]-[端末(Terminal)]を開き、今度は漢字コードをいずれも「UTF-8」に設定します。

(7) 「LANG=ja_JP.UTF-8」コマンドにより、言語設定をUTF-8に切り替えます。

(8) 以下のコマンドにより、英数字のみに変えたファイル名を、再度日本語(UTF-8)のファイル名に変更します。

コマンド例) mv **英数字のファイル名** **日本語ファイル名**

(9) 「ls」コマンドで、日本語ファイル名が正しく表示されることを確認します。

《方法2》 ※方法1でうまくいかない場合に用います。

(1) 「ファイルサーバ利用の手引き」に従って、Windows端末上で Tera Term を起動し、38号館ファイルサーバ(linuxfs-38.cc.kindai.ac.jp)へSSH接続します。

(2) 「ls -li」コマンドによりファイル一覧を表示します。該当ファイルが表示されている行の一番左に表示されている番号(inode番号)を確認します。

(3) 以下のコマンドにより、ファイル名を日本語から、英数字のみの名前に変更します。

コマンド例) find . -inum **手順(2)で確認したinode番号** -ok mv '{}' **英数字のファイル名** ¥;

(4) 画面に確認の表示が出たら、変更しようとしている(文字化け状態の)ファイル名が表示されていることを確認し、問題なければ「y」を入力します。

(5) 「ls」コマンドにより、ファイル名が英数字に変更されたことを確認したら、以降《方法1》の手順(5)~(7)に従って、日本語のファイル名へ再度変更を行ってください。

2. Windows上でのファイル名変換

(1) 「ファイルサーバ利用の手引き」に従って、Windows端末のエクスペローラ上から、38号館ファイルサーバへアクセスします。

(2) 文字化けしているファイルのファイル名を変更し、日本語のファイル名をつけます。これによりUTF-8のファイル名となります。

(参考)文字化けしたファイル内容の変換方法

■テキストファイルのファイル内容が文字化けしている場合の変換方法(例)

- (1) 「ファイルサーバ利用の手引き」に従って、Windows端末のエクスプローラ上から、38号館ファイルサーバへアクセスします。
- (2) 該当のファイルをWindows端末のデスクトップ等へ一時的にコピーします。
- (3) 元のファイルについては、ファイル名を変え、バックアップとして退避しておきます。
- (4) 手順(2)でデスクトップ等へコピーしたファイルを、「秀丸」などの文字コード変換機能を持つテキストエディタで開きます。
- (5) ファイル内容の日本語が正しく表示されていることを確認します。
- (6) 変換先の文字コード(UTF-8など)を指定して保存を行います。
(例:秀丸の場合)メニューの[ファイル]ー[名前をつけて保存]を開きし、[エンコードの種類]で変換後の文字コード(「UTF-8」など)を指定し、保存します。
- (7) 変換したファイルを38号館ファイルサーバへ書き戻します。